



学校だより

令和3年度 7月号
令和3年 7月1日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

自分や周りの人を大切に

校長 小林 正樹



夏至を迎え、昼の時間が長くなりましたが、梅雨時で天気すぐれない日もみられます。保護者・地域の皆様におかれましては、この1学期本校の教育活動にご理解・ご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、先月3年生にとっては最後の公式大会となる、さいたま市学校総合体育大会が開催されました（陸上は本日～3日間）。団体ではサッカー部、個人では女子ソフトテニス部、女子剣道部、女子柔道、男子水泳が県大会出場を果たしてくれました。さいたま市の代表として県大会に進んだ生徒の皆さんのさらなる活躍を期待しています。残念ながら、県大会出場を逃した部活動の中には、相手と五分の試合運びで、もう一步のところまで惜しくも敗れた部活がいくつもありました。それらに共通していることは、敗れたあとの生徒の目には必ずと言っていいほど「涙」があったということです。その涙の意味は、悔しさもあるかもしれませんが、これまで頑張ってきた自分に対する充実感や達成感のようなものも含まれていると確信しています。ぜひ、この「涙」を今後の生活や進路に向けて生かしてほしいと期待しています。自分の力を出し切り、希望の結果が出る場合とそうではない場合、様々でしょうが、目標に向かって努力するという過程を学んだことは事実です。そして、3年間公式戦には出られなかった生徒の皆さんには明治大学ラグビー部故北島監督の次の言葉を送ります。「いつの時代も勝利の本当の立役者は、ユニホームを着ることができた者よりも、一度も試合にでることなく卒業していった部員たちだと思っている。4年間、一度も陽に当たることなく、常に縁の下でチームを支えてくれた部員たちこそが本当の勝者であると信じている。」

話は変わりますが、6月18日（金）に生徒会主催のいじめ撲滅月間の取組として放送による校長講話がありました。その一部をご紹介します。

言葉は、「言っていること・悪いこと」、「言っているとき・悪いとき」、「言っている人・悪い人」ということを意識した使い方が大切です。人と人とのトラブルが起きるときには、大体この言葉の使い方が守られていないときです。

まず、「言っていること・悪いこと」ですが、誰でも、その本人にとっては、絶対言ってほしくないこと、触れて欲しくないことがあります。相手が誰であっても、たとえ親友であっても、親であっても、言っていることはあるものです。そのことは肝に銘じてほしいです。人には触れて欲しくないことのひとつやふたつはあるものです。それは意識して言わないのが礼儀というものです。

次に、「言っているとき・悪いとき」ですが、場の雰囲気を読んで、その場にふさわしくないことは言わないのが、人として大切なことです。しかし、つい言ってしまうがちなときもあります。クラスや部活動の人のおしゃべりのなかでも、無責任な推測話をしたり、場にふさわしくない言動をしまったりする人がいます。今、言うべきでないことは、どんな場でも言わないことが大切です。

最後に、「言っている人・悪い人」ですが、同じ内容のことを言われても、人によっては非常に傷つく人もいれば、あまり気にしない人もいます。大事なことは、言われた側がどう思うかを最優先にするということです。また、人によってはあなたには言われたくない、ということもあります。言う側の論理が優先であってはけません。

このようなことがしっかりと理解できるようになって、「成長した中学生」だと認められるわけです。言語環境を整え、お互いを思い合って、言葉を大切に使いましょう。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症は、まだまだ予断を許さない状況が続いています。ご家庭におかれましても、毎朝の検温、マスク着用、手洗いの徹底等、感染症予防への取組を引き続き、ご協力お願いいたします。